

【読楽】021 「五倫訓(礼学童蒙必用)」を読む \*読楽箇所＝巻末附録「礼学童蒙必用」



【概要】

〈礼学大全〉五倫訓(礼学五倫童蒙訓)

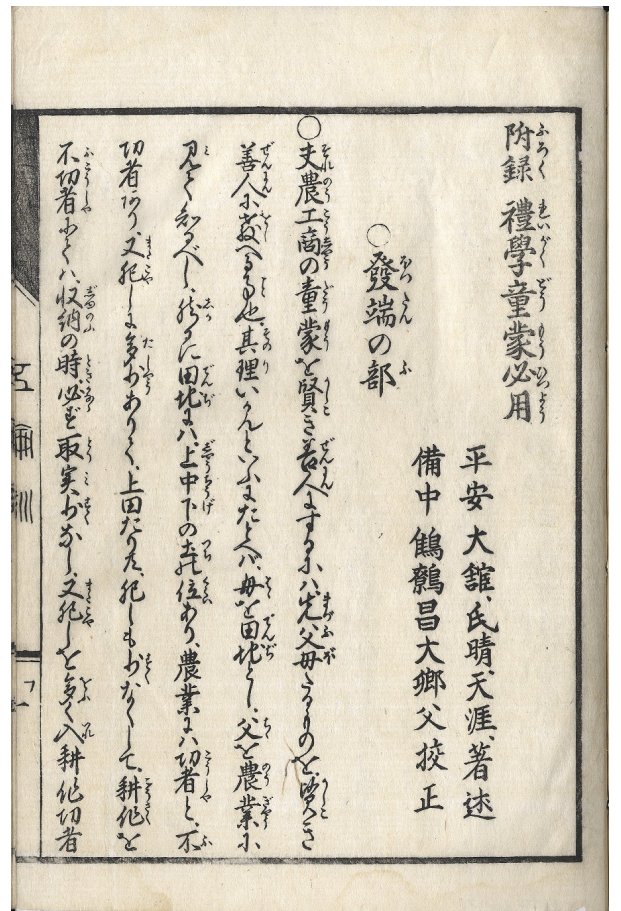
【判型】半紙本1冊。原寸縦234耗。

【作者】大館天涯(氏晴)作・序。鷓鴣昌(大郷)校・序。

【年代等】天保6年(1835)11月自序。同年12月、鷓鴣昌序。天保7年1月神崎廉(神崎小魯・朴斎)、序。同年5月、児島信跋・刊。[京都]明礼堂(著者)蔵板。

【備考】分類「礼法」。作者は江戸時代中・後期の故実家で、宝暦6年(1756)生、天保9年(1838)4月23日没。83歳。名、教美・氏貞・氏晴。通称、中務・主水・礼三・謙堂。号、天涯・明礼堂・不知全斎・好問斎。近江彦根の人。諸礼に通じた。天保年中に伊予国に下り、家祖伊予守氏明の古城跡を訪れ、碑を建立した。他の著作に、『礼学要種』『威儀曲礼教種』『吉良流結内(納力)婚礼之書』『吉良流諸語問書』『吉良流帯飾之書』『婚礼略法并』『女訓百ヶ条』『女諸礼集』『翠簾之巻』『束帯之巻』『当流納幣之巻』『御髪置之巻』『嫁入之次第付座鉤図』がある(『国書人名辞典』)。

内容は、修身齊家の要諦として礼学(礼儀・威儀兼備の礼法)と五倫を諭した教訓書で、「礼学発端」「五倫発端」および「父子之親」「君臣之義」「夫婦之別」「長幼之序」「朋友之信」の7章から成る。巻末附録「礼学童蒙必用」は、2歳からの礼法教育と朱文公の『童蒙須知』を敷衍した教訓で、「発端」「子育」「衣服」「言語」「歩行」「掃除払拭」「素読手習」「雑事」の8章に分けて述べる。このうち「礼学童蒙必用」では挨拶(御礼)を基本に据えた育児を2歳から始めよと説く。言葉が話せない幼児なら、母親が抱きながら一緒に感謝の言葉を述べれば良い。同様に、3歳以後も日常生活における挨拶を重視し、以後の礼法教育を縷々述べ、8歳になったら「礼儀・威儀兼備の礼学を男子・女子に限らず、その親々が師となりて怠りなく教えよ。もし親々が多忙なら師を選んで教えよ。ただし、昨今流布する和礼家の諸礼躰方の故実は必要ない」と説く。このほか、本文の「父子之親」や「朋友之信」にも育児に関する記述が見える。



【参考=当流<sup>なんしよれい</sup>[大館流]男諸礼<sup>ぼつようしゆう</sup>躰方<sup>たてま</sup>拔要<sup>はくよう</sup>集初段<sup>しうたんだん</sup>免許<sup>めんきょ</sup>77カ条<sup>77かじょう</sup>】

【判型】一枚。縦180×横1916耗。

【作者】大館不知問齋(氏貞・氏晴・天涯・明礼堂・好問齋 \* 大館上総介満氏15世)。

【年代等】文政3年(1820)4月書。

【備考】大館天涯が文政3年に西村彦左衛門に授けた大館流諸礼躰形の初段77カ条の免許(写真は冒頭と末尾)。

